

第三百二十九回 青葉会

平成二十五年八月二十二日(木)

午後六時〜九時

丸紅来客食堂「談話室」

〈選者〉 ☆ 川合万里子 先生

〈出席者〉

伊賀山そらお 今井紀久男 大林猛 小川恭延 久米五郎太 小西弘子 中野一灯
山崎亜也 山内天牛

〈投句〉

柿崎忠彦 小早健介 朱牟田恵洲 土谷堂哉 豊田ゆたか 福島正明 古田昇 宮内規雄
渡邊盛雄

〈紙上選句〉

赤田堅 川口孤舟 庄司龍平 高橋敏郎 橋口隆 早川允章 福島正明 星田啓子
村田くに子 山崎青史 山本三恵

《選者吟》

遺骨無き兄の英霊花火果つ 万里子 (そ・弘)
落蟬のやうに整(たご)しく瞑(あつむ)らな 全 (五・灯)
子犬らと走り夜風に秋確か 全 (敏・く)
ジヨガーらへ内濠越しの蟬時雨 全 (恭・青)
祖父に縦(こ)き茄子の馬と村の墓地 全

ゴシックは選者の天

《互選句》

八点 ☆ 月白し李朝の壺の下膨(しもぶくれ) 正明 (万・そ・紀・孤・龍・灯・允・青)
(灯: エロスを感じる)

新橋芸者二人の初舞台

六点 涼やかに絵になる辞儀や高島田 紀久男 (そ・猛・五・敏・く・天)

句集「樂屋句會」上梓

☆ なき人もいつか加はり盆の月 五郎太 (恭・弘・敏・正・亜・三)
(正: なき人↓亡き人)

四点 ☆ 何もかも流れし里を撃つ夏日 五郎太 (万・紀・龍・隆・正・啓)

(青↓何もかも流されし里夏日撃つ)

万緑の谷ひとすじの滝落す そらお (堅・恭・弘・青)

(青: 「万緑や」とした方が景が広がるのでは?)

川下り青葉の中の水しぶき 全 (堅・五・灯・允)

法然院

長法話眠けで止まる団扇風 五郎太 (そ・猛・啓・亜)

亀の引く水輪小さき今朝の秋 弘子 (孤・五・龍・三)

☆ 夏稽古子の手に余るトロンポーン 堂哉 (万・孤・灯・天)

炎昼や船渠に響く鉄の音 一灯 (そ・孤・五・天)

山笠昇(やまか)くや締め込み固き男伊達 全 (猛・允・正・く)

浮雲のたゆたふ池塘夏あざみ 全 (そ・孤・啓・亜)

「助六千穉樂」

三点 ☆ 嫁にゆく娘と楽しむ夏歌舞伎 忠彦 (万・紀・隆)

嬰と婆絵莫菴一つに深眠る 一灯 (く・青・天)

(青: 深眠るは少しヘンだから、中七以降を「絵莫菴一つの熟寝(うまじ)かな」としては?)

カツターが涼風運ぶ江戸運河 正明 (猛・恭・天)

うたかたの夢を咲かせて水中花 昇 (堅・敏・く)

☆ 塾帰り母娘を照らす盆の月 亜也 (万・孤・灯)

「風立ちぬ」波紋左右に敗戦日 全 (堅・隆・天)

秋の灯やチェロの音洩るる家ゆかし
夏の子で図書館一杯だが静か
鰻屋の出前持ちさん釣いらぬ

三津五郎の「髪結新三」

二点 小気味よき勘三郎ばり秋狂言

三井寺

底紅や茶屋の名物力そば

☆ 音のやや重く掃かるる夏落葉

お隣の桐喝常久(とむ)に終戦日

☆ 十五人三代集ひ夏の旅

風鈴の音にまどろみの至福かな

峰雲や長靴踏み出す龍馬像

(正：上五は「雲の峰」の方が良いと思う) (長崎)

心地よき夜風に立ちて八月尽

☆ 汗引いてゆつくり病状友に聴く

鰯煮る羅臼こんぶと梅干しで

泣き笑ふ小沢昭一夜這星

節電の声遠退(とおひ)ける熱中症

男性用日傘急増昨年比

八一五(はちいちご)熱涙滂陀忘れまじ

☆ 秋早人工雨をも試みる

外出を避くる他なしこの炎暑

旧作の「ひろしま」見入る原爆忌

孔雀舞ふ盆提灯に朝の風

秋暑し民の声聞けピラミッド

庭師の手尽さる庭の蟬の穴

人身事故の遅れ残暑の駅に聞く

☆ 耳遠くなりて初めて秋の声

慎みて母乗り切れり秋に入る

薄命は世の常ならむ月下美人

終戦日国民学校一年生

汗だくのテレビ修理士ポチ(心付け)に礼

齒の麻酔残して向ふ残暑かな

亜也 (堅・敏・正)

天牛 (紀・弘・正)

全 (龍・亜・三)

紀久男 (敏・允)

五郎太 (隆・允)

弘子 (万・啓)

健介 (紀・三)

ゆたか (万・龍)

全 (猛・允)

一灯 (弘・正)

亜也 (恭・隆)

天牛 (万・紀)

全 (弘・灯)

盛雄 (紀・隆)

猛 (啓)

全 (龍)

全 (五)

恭延 (万)

全 (青)

全 (隆)

五郎太 (亜)

健介 (三)

弘子 (三)

恵洲 (恭)

全 (万)

堂哉 (猛)

昇 (堅)

規雄 (紀)

天牛 (亜)

盛雄 (く)

● 次回青葉会

九月二十六日(木) 午後六時〜九時 (丸紅 談話室)

▲ 当季雑詠五句 投句二句

十月二十四日(木)

十一月二十八日(木)

以上 文責 紀久男

平成二十五年八月句会報

一 今回は万里子先生以下10名出席。投句9名。常連の清さんと和夫さんが療養中、正明さん忠彦さんが夏休みの為一寸夏枯れの感じかと思われましたが、いつもの寄贈品：甘辛両方の好物が出されると忽ち元氣恢復の有様でした。お二人の病状、社友会ビアパーティ、竹橋ビル、そらおさん恵洲さんメールでの連句等話題にし乍ら、亜也さんの司会で順調に推移。御覧のように正明さん、五郎太さん、そらおさん、一灯さんが好成績でした。

先生から海苔巻の豆腐餅、明石の蛸焼、弘子さんから豆源の饅頭、一灯さんから台湾の20年物紹興酒、小生の「北雪」大吟醸（佐渡）、亜也さんから「加茂錦」純米吟醸（新潟）。

二 関係者近詠

あぢさゐの未だ浅緑無人駅 万里子 子供の日小さき靴のなかりけり 規雄
背筋伸し茅の輪をくぐる詩友たち 全 望潮に仕掛けてみたき潜望鏡 孤舟
藩校の床艶やかに新樹光 全 竹騒は世阿弥の嘆き花あせび 全

日照雨去り小旅帰りの髪洗ふ 全 谷深き早瀬に躍る鮎の影 允章
托卵てふ子育ても在り慈悲心鳥 全 空蟬の六肢しつかと幹掴み 全
真夏日の不発弾処理なほ戦時 全 夕影に萎みて落つる木槿かな 全

梅雨茸の放らるマンション共有地 眞希子 涼しさや早瀬乗り切る棹捌き 恵洲
朗らかに麦熟れてをり讃岐富士 弘子 横ざまに倒れて昨夜（よべ）の茄子の馬 全
図書館へ日傘とゆつくり草の丈 全 食前の梅酒に早やも頬染めて 全

六月の富士うつすらと三角点 全 ぐるぐると目眩ましして蜻蛉捕り 允章
女みて蛇みて午後の無縁坂 全 新涼のボブラを鳴らす風の音 全
梅雨月の潤む赤色留守居かな 恭延 更衣して重くなる腕時計 丹野敦雄

うつつなや團十郎消ゆ梅雨の闇 紀久男 全 小笠原和男選、伊藤伊那男選
泥鱸屋の三代つづく河東節 全 更衣して重くなる腕時計 全

「萬緑」九月号 全 出口善子（推薦）選評省略
「俳句」九月号 全

三 「樂屋句會」：句会早や目に終り、皆様に回覧した句集（河東節十寸見會）より抜粋

にほい立つ御簾内河東名ごり草 團十郎 全
十二代目さんを偲んで 三津五郎 全

鉢巻をゆずりて遠く夏の星 全 下駄の音のひびきて裂くる夏の闇 全
川上る若鮎のごと出端の舞 全

（出端（まは）：助六が河東節伴奏に自己紹介のポーズを決める踊りらしきもの）

とどかぬと父の面影みにしみる 海老蔵 全

○毎日俳壇選者 西村和子選（特選のみ紹介） 全 昨日より今日の舞台ぞ七変化 安田祖心

夏襟や楽屋見舞いの芸者衆 逆井幸江 全 助六の悪態うれし梅雨晴間 山田啓子

羅の佳人付き添ふ楽屋かな 全 荒梅雨や助六出端の下駄の音 全 梅雨空を払うが如き傘さばき 細田安兵衛

梅雨寒や團十郎なき絵番附 小林由香利 全 車座に鮎桶かこむ楽屋かな 紀久男

四 訃報ご連絡

当会会員・石川清さんが9月10日朝ご逝去されましたので、謹んでご連絡申し上げます。（享年七十八歳）。尚、ご葬儀は近親者のみの密葬とのことですので、皆様へのご葬儀等の連絡はございません。心からお悔やみ申し上げます。合掌

九月十日

紀久男記